

【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

税と共に充実した暮らしを

菊陽町立武蔵ヶ丘中学校

三年 平坂 真悠

「青色申告」、「電子申告」。私がこの言葉を知ったのは、小学校五年生の夏休みだった。税に関する書道コンクールのテーマになっていたその言葉が指すものに、当時の私は、特に興味を持たず、ただ文字を綺麗に書くことに集中していた。だから、今回を機に「確定申告」について知ろうと思った。

まず、会社勤めにいる両親に話を聞いた。すると、会社員は、給料に関する、納税や確定申告は、会社の経理部が行うため、あまり意識していないことが分かった。しかし、収入額は個人によるが、額が高くなれば、税金も高くなると、ため息をつきながら話してくれた。だが、十二月の給料は年末調整があり少し嬉しいとも言っていた。

次に、アスパラやメロンの栽培をしている専業農家の祖父母に話を聞いた。農家は会社員と異なり、自営業であるため、確定申告を自身で行わなければならないことが分かった。青色申告の方が、白色申告よりもメリットが大きいため、祖父母は毎年、青色申告をしているようだった。しかし、一年間の機械や肥料の購入額などの明細書をこまめに整理し、それに加え、青色申告の整理には手間がかかるため、とても疲れる作業だと言っていた。これらのことから、会社員と自営業の確定申告の方法は違うが、働く大人は平等に行うことだと分かった。そして、話を聞く中で興味を持ったのは、節水ならぬ、「節税」という言葉があるということだ。節税の例として青色申告を挙げたが、他にもさまざまな方法がある。近年では、税制改正により、e・Taxによる電子申告が広まっていることを知り、情報化がこのような面でも進んでいることも分かった。

私はこれまで、税金は、減らすことのできない絶体的なものというイメージを持っていた。しかし、実際は確かに変えられないものもあるが、税に関する正しい豊富な知識を持つていることで、少しでも「お得」にできることが分かった。

小学校の時、何気なくだだテーマとして見ていた文字をそれが何なのか実際に調べたことで、税金の奥深さを一部だが知ることができた。毎年、国税庁は、将来を担う私たちが作品を通じ、関心や理解を深めることを目的としていたことを知り、私は、これまでたくさんあった機会を無駄にしていたことを反省し、これから税について積極的に学んでいきたいと思った。

私は今年で義務教育期間が終了する。そうしたら、法律上、働けるようになる。社会人になれば、きっとそこから、何十年と税を背負っていかなければならない。しかし、知識があれば、その負担は軽減できると私は思っている。ニュースでたまに見かける脱税は、絶対にしてはいけない。どうすれば税と共に充実した暮らしをつくることができるのかを考え、工夫をしていくことが大切だと思う。